

受講生の声



第1期受講生

森和さん

（仙台市社会福祉協議会）

1. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムを受講された理由を教えてください。

平成28年度からCSWとして業務を行うにあたり、幅広い知識とワークスキルの習得が必要だと感じていました。特に生活課題が複雑化する中では、個人の経験則に依らず、俯瞰的に物事をとらえる視野の広さが必要だと考えていました。同講座では、これまで学ぶことのなかった分野についてのプログラムも準備されており、様々な領域について学べることを期待して受講しました。

2. 実際の授業を履修されていかがでしたか？

年間132時間（※平成28年度開講時）のプログラムはどれも幅が広く、多くの領域に触れることができ、一つひとつの内容について深く考えさせられました。特に、学問的な講座と日々の活動に直結する技術的な講座の両側面が配置された学術的な内容は、これまでの自分の考え方を振り返って業務を見直す機会にもなったと同時に、活動上の様々な悩みを解決するヒントや実践的なスキルを得ることができました。さらに、講師陣から学んだワーカーとしての心構え、そして「地域」や「福祉」という考え方が今なぜ重要なのかという深い問いに至るまで、多岐にわたる学びを得るとともに、個人の生活や地域というものがいかに多くの要素から成り立っているか、そのためにワーカーがどう行動すべきなのか、ということを改めて考えることができました。1年に及ぶ講義は重量級ですが、今まで触れることのなかった領域や今後必要となる考え方について、より深く学ぶための動機付けにもなったと思います。

3. 学んだことをどのように活かされていますか？

相談場面でのつなぎ先や、専門職との連携など業務に関わる内容はもちろん、各講師や同じ地域支援に関わるワーカーの方々との関わりを持てたことは、大きな受講の成果だと感じています。実際に、主催する研修会の講師を依頼することができたり、同じ受講生からアイデアや情報をいただいたりと、受講したことで新たなつながりを持つことができました。今後、こういったプログラムを通じて、ワーカー同士の「言語の共通化」を図っていき、支援者同士の輪を広げていくことが重要だと思います。



第1期受講生

ダクルス久美さん

1. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムを受講された理由を教えてください。

福島県で被災者支援の職に就いて数ヶ月の頃、現場で向き合う課題の複雑さや難しさに直面し、どこに向かっているのか、これからどうなってゆくのかわからない思いで試行錯誤しながら悩みつつ取り組んでいたところ、インターネットでこのプログラムの受講生募集を見つけ、すぐに問い合わせました。

2. 実際の授業を履修されていかがでしたか？

現場で活躍され知識も経験も豊富な先生方から、地域福祉の基本やコミュニティソーシャルワークの在り方・考え方といったこの講座の軸となる学びは勿論、理論やデータ・豊富な事例などを直接具体的に学ぶ事ができました。これだけ充実した内容を体系立てて学べる場はほかにないと思います。またこの学びを通して、仕事をしながら漠然と「こういった事が必要なのではないか」など感じていたことが、きちんと裏付けを以て整理されたと感じます。さらに社会全体の課題を俯瞰する視点が養われたと思います。日本の社会が向かう先と、その一隅に身を置く自分がどこを、何に取り組むべきかを知ることで、課題の複雑さ、大きさに圧倒されるだけではなく、微力ながらも自分の役割のようなものが見えたことでの励みと力を頂いたと感じます。

3. 学んだことをどのように活かされていますか？

震災後の「地域再生」は、地域に住まわれる方々と、生活の場から追われて散らされた被災者の方々と新しい関係を構築し直す「新しい地域作り」であり、被災者支援とは、その被災者の方々を内包する地域全体としての課題も同時に見て成り立つものだと感じています。それぞれが抱える課題は多様であり、またひとりが抱える課題はさらに多くの人々の課題でもあると感じます。今後さらに様々な領域のより多くの方々にこのカリキュラムを学んで頂くことで、地域を支える人材がひとりでも多く輩出され、連携・協働の輪が広がることを期待しています。ひとりの知識やできることには限りはありますが、共に学んだ人々が寄り合って力を出し合えば、より良い可能性を生み出すことができると信じています。





第2期受講生
横山 康信 さん

1. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムを受講された理由を教えてください。

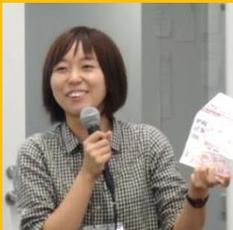
自分自身が関わっている業務を行うにあたり、実践的な専門知識や技術を身に付ける必要があったこと、また、このプログラムの受講を通して具体的に地域への関わる方法を学び知ること、地域課題への取り組みの一助になると考えたからです。さらに、これから先の地域包括ケアシステムにおいて住民主体による地域課題解決の支援ができるような仕組み作りの担い手として、また、地域住民が安心して暮らせる社会構築を図る役割を果たしたいと考えたからです。

2. 実際の授業を履修されていかがでしたか？

授業は講義形式からグループワークにまで広がり受講生の学びが深められる内容となっています。興味が惹かれる事例などが取り扱われており、毎回楽しみに授業を受ける事ができています。社会の動きに合わせて、また今話題となっている内容を授業に取り入れるなど工夫がなされていると感じています。講師への質問も出しやすい雰囲気であり、後日コメントにて回答を受ける事もできます。本授業の受講を通して新しい考え方や物事の捉え方を得ることができ、また、俯瞰的、多角的な視点を持つことができるようになりました。日々の業務の見直しや、自分自身を内省し、再確認、再構築するよい機会となっています。また、授業を通して、受講生同士の繋がりが得られていることも大きいです。職業や職種も様々で、福祉関係の法人職員だけでなく、NPO 法人職員、民間の社員、学生などが学びの友となり、お互い刺激を受け、同じ時間を過ごすことで、良い関係性（ネットワーク）が構築できています。

3. 学んだことをどのように活かされていますか？

高い専門性と実務経験豊富な講師陣と繋がりを作ることができたことで、自分自身の業務課題に対し質問や相談をするなどし、アドバイス、発想、ヒントを得て解決にあたる事ができています。またこの学びより、専門的知識や技術を修得できたことで根拠をもって業務にあたれています。公私において自身の知識・教養が深まり、日々の生活が充実したものとなっています。



第2期受講生
佐々木 愛 さん
(仙台市社会福祉協議会)

1. コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムを受講された理由を教えてください。

平成 28 年度から仙台市社協若林区事務所に配属され、地域の皆さんと共に活動するようになりました。地域の福祉力や関心の高さを感じる一方、活動の担い手の掘り起こしや、震災によって顕在化した課題、社会的孤立など、日々、様々なニーズに直面しています。社会福祉、特に地域福祉を取り巻く動向や、各地で活躍されている方々の活動事例に触れながら、自分自身のスキルアップと今後の活動のヒントを学ぶために受講しました。

2. 実際の授業を履修されていかがでしたか？

90 分×4 コマ、大学での講義は久しぶりで、慣れるのに少し時間がかかりましたが、とても充実しています。ひとつめは、履修科目の幅広さです。私は、社会福祉系の大学で地域福祉を専攻していたので、ある程度の基礎になる部分は学んでいましたが、コミュニティソーシャルワークやそれに伴う実践を具現化していくには、学びながら実践を深めていくことが大切なのではないかと思っています。達成したい目標へのプロセスや企画の考え方等、組織運営やファンドレイジング、ファシリテーション等の授業は特に印象に残っています。また、宮城に来て2年の私にとっては、仙台、宮城、東北の実践を学ぶ機会でもあり、実践者である先生方との出会いも新鮮でした。ふたつめは、2 期生との出会いです。個性豊か、かつ熱心なメンバーに恵まれ、毎回の授業でもお互い切磋琢磨しています。授業以外での交流も活発なので、大切にしたいつながりです。

3. 学んだことをどのように活かされていますか？

若林区事務所には第 1 期に修了した先輩がおり、同じ授業を受講した分、話題も広がります。今年度は、スキルアッププログラムで出会った先生と一緒に企画している事業もあり、新たな取り組みも始まりました。また、具体的な事業ではなくても、日々の地域の皆さんとの関わりの中で学んだことを活かす場面は多々あります。些細なことかもしれませんが、少しずつ積み重ねながら、これからも活動していきたいと思っています。

